

令和5年度 日田市総合教育会議会議録

開催年月日	令和6年2月7日(水)												
開催日時	午前10時00分												
開催場所	日田市役所4階 庁議室												
出席委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">日田市長</td> <td style="width: 33%;">椋野 美智子</td> <td style="width: 33%;">教育長</td> <td style="width: 33%;">江嶋 久典</td> </tr> <tr> <td>職務代理者</td> <td>木下 靖郎</td> <td>委員</td> <td>諫本 憲司</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>古田 嘉寿美</td> <td>委員</td> <td>荒川 富士子</td> </tr> </table>	日田市長	椋野 美智子	教育長	江嶋 久典	職務代理者	木下 靖郎	委員	諫本 憲司	委員	古田 嘉寿美	委員	荒川 富士子
日田市長	椋野 美智子	教育長	江嶋 久典										
職務代理者	木下 靖郎	委員	諫本 憲司										
委員	古田 嘉寿美	委員	荒川 富士子										
事務局職員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育次長</td> <td style="width: 50%;">企画振興部長</td> </tr> <tr> <td>教育総務課長</td> <td>地方創生推進課長</td> </tr> <tr> <td>学校教育課長</td> <td>地方創生推進課主幹(総括)</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主幹(総括)</td> <td>教育総務課職員</td> </tr> <tr> <td>地方創生推進課職員</td> <td>学校教育課職員</td> </tr> </table>	教育次長	企画振興部長	教育総務課長	地方創生推進課長	学校教育課長	地方創生推進課主幹(総括)	教育総務課主幹(総括)	教育総務課職員	地方創生推進課職員	学校教育課職員		
教育次長	企画振興部長												
教育総務課長	地方創生推進課長												
学校教育課長	地方創生推進課主幹(総括)												
教育総務課主幹(総括)	教育総務課職員												
地方創生推進課職員	学校教育課職員												
議 題	<p>(1)日田市教育大綱について</p> <p>(2)日田市の児童生徒の現状について</p> <p>(3)その他</p>												

<p>事務局</p>	<p>只今から、令和5年度日田市総合教育会議を開会いたします。 お手元に配布しております次第に沿って進めさせていただきます。次第の1でございますが、開会に当たりまして掠野市長がご挨拶申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆様おはようございます。 本日はお忙しいところ、総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。教育委員の皆様方には常日頃、教育行政にご協力をいただき、本当にありがとうございます。 私も昨年8月に市長に就任しまして、早いもので半年になります。ちょうど今、来年度の予算を最終的に編成、調整している段階に来ておりますけれども、選挙でお約束した5つの基本公約がございます、若い方たちが残れる、戻れるまちにするために仕事の選択肢を増やす、子育て支援を徹底強化する、それから特に、周辺部の高齢者の方からご要望の強い運転免許返納後の移動支援、そして観光を強化して日田市の魅力を世界に発信する、最後が旧郡部の振興でございました。 子育て支援の強化は、福祉サイドだけではなく、当然、教育と一緒にやっていく必要があるところでございます。 20歳のつどいの時にも申し上げましたけれども、子どもたちが生きていく80年、90年先、非常に世の中の変化が激しく、どんな時代、社会になっていくか分からない、予測が難しい時代になっています。 そういう未来の中で、生きていけるための力を教育で準備する、そのためには私たちは何ができるのかということを経理長ともご相談をしながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。 この後の議論でもぜひ、皆様方からそういったご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。 私は、市政執行に取り組む視点として、3つの目を常にもっております。虫の目と鳥の目と魚の目です。 虫の目は常に視点を現場に置くこと、そして、縦割りを廃して総合的に俯瞰する鳥の目、それから時代の先を読む、流れの先を読む魚の目です。 皆様方からの忌憚のないご意見をいただいて、子どもたちや親御さんや教育の現場でどんな課題を持っておられるのかということをいろいろとお伺いし、また、総合的にどういうふうなそれを組み立てていったらいいのか、この先、子どもたちが時代の変化</p>

<p>事務局</p>	<p>の中で生きていくことについて私たちに何ができるのか、そういうことをお聞かせいただければ大変ありがたいと思います。 どうぞよろしく願い申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>ありがとうございます。 続きまして、江嶋教育長からご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、教育委員会を代表しまして一言ご挨拶を申し上げます。 棕野市長におかれましては、新年度予算の編成、それから3月議会前のお忙しい中で、総合教育会議を開催いただきまして誠にありがとうございます。 また、日頃から教育行政にご理解、ご支援等いただきまして、心から感謝を申し上げる次第でございます。 教育施策の執行は教育委員会が行っておりますけれども、方針等も含めたところでの事業実施に当たっては、市長と考えを共有して、そのことが市民の皆様は何らかの形で伝わっていくことが大事ではないかと私どもも考えております。 本日の議題は二つございまして、教育委員会の方針、そして日田市の子どもの現状や課題等について、市長と教育委員会で意見を交わし、先ほど市長が申し述べられたような視点も踏まえながら、意思疎通を図っていければと考えております。 本日は限られた時間でございますけれども、有意義な意見交換を行いたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、協議事項に入らせていただきます。委員の皆様におかれましては、発言時にはマイクを使っていただきますようお願いいたします。 では、市長の進行で進めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>次第に従い進めさせていただきます。 初めに、議題1の日田市教育大綱につきまして、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>私から日田市教育大綱について、ご説明させていただきます。資料1をご覧ください。 教育大綱につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3におきまして、地方公共団体の長、つまり市長</p>

が教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針、具体的には国の教育振興基本計画になりますが、これを参酌し、その地域の実情に応じ、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることが義務付けられております。

また、第1条の3第2項において、市長は大綱を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ総合教育会議において協議するものとされております。

資料2をご覧ください。

日田市教育大綱につきましては、平成27年4月1日に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、大綱を定めることが義務付けられましたことから、平成27年度の総合教育会議における種々の議論を踏まえ、平成28年4月に平成28年度から令和3年度までの6年間を計画期間とする日田市教育大綱を定めるとともに、教育大綱で示された基本方針を実現するための具体的な取組を教育行政実施方針で示すこととしたものでございます。

現在の教育大綱につきましては、令和3年度の総合教育会議における種々の議論を踏まえて定めたものでございまして、計画期間は令和4年度から令和9年度までの6年間としております。

この計画期間につきましては、概ね4、5年程度と国から示されておりますが、法の定めはないということ、二つ目に、教育大綱の基本方針に基づいた具体的な取組を示す、今年度中に改定を予定しております教育行政実施方針の計画期間の周期と合致させているという点、3つ目に、大綱の策定権限は市長にありまして、令和9年度までの日田市総合計画と方向性や期間の整合性を図ることが望ましいことから、計画期間を市の総合計画の周期と合わせる形で設定したものでございます。

日田市教育大綱の理念、基本方針につきましては、1ページに記載のとおりでございます。

資料3と書かれた教育振興基本計画のリーフレットをご覧ください。国の定めた令和5年度から9年度までの教育に関する総合計画でございます。

2ページをご覧ください。

この計画は、持続可能な社会の創り手の育成、日本社会に根差したウェルビーイングの向上という二つのコンセプトのもと、4ページにありますとおり、5つの基本的な方針、16の目標と基本施策が示されております。

教育大綱の策定に当たりましては、国の定める教育振興に関する施策についての基本的な方針を参酌することとなっております。

<p>市長</p>	<p>す。</p> <p>資料2に戻っていただきまして、1ページの日田市教育大綱の基本方針の1番右の列をご覧ください。</p> <p>「国の方針（計画P4）との関連」と記載しておりますが、これは資料3の国の教育振興基本計画の4ページの5つの基本方針の1から5までの番号を記載しております。</p> <p>2ページ以降につきましては、日田市教育大綱で示された基本方針を実現するための具体的な取組として、現在策定中の教育行政実施方針案の構成内容を載せております。</p> <p>「項目」の右の「方針」の列に「指差しのイラスト」を表示しておりますが、この1から5までの数字は、1ページの教育大綱の5つの基本方針との関連を示しております。</p> <p>また、1番右の「国の目標（計画P4～6）との関連」と書かれた列につきましては、資料3の国の教育振興基本計画の4ページから6ページまでの16の目標と基本施策の1から16までの番号を記載しております。</p> <p>説明につきましては以上でございます。</p> <p>それでは、教育大綱は市長が定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ総合教育会議において協議するものとされておりますので、教育大綱につきましてご協議をお願いしたいと思います。私からは以上でございます。</p> <p>ご説明くださったように、日田市の教育大綱は平成28年度に策定し、令和4年度に一部を改正、令和9年度までの実施期間となっているところでございます。</p> <p>内容そのものに問題がある訳ではないのですが、冒頭のご挨拶でも申し上げたように、時代は大きく変わっているということを私は痛切に感じております。そうすると、市民に対してお示しする教育大綱としては、時代の変化に即した教育の在り方をもう少し分かりやすくお示しできないかと考えております。</p> <p>先ほどご説明いただいた文部科学省の教育振興基本計画が、日田市の教育大綱の見直しを行った後、令和5年度に出されております。</p> <p>その中に「教育の不易と流行」という言葉があります。不易の面もありますけれども、流行の面ももう少し分かりやすく示せたらという気がございます。国の計画を読むとやはり時代認識とか、それを受けての教育の在り方のコンセプトなど、非常に私は共感するものが多くございました。</p> <p>8月に就任して10月に教育長をお迎えしましたけれども、そ</p>
-----------	--

の時に教育長に申し上げたのは、日田市の子どもたちが自分の頭で考えてチャレンジし、そして世界に通用する大人に育っていくよう、ぜひ一緒に取り組んでいただきたいという願いを申し上げました。

先ほど、冒頭の挨拶で申し上げた20歳のつどいの時に、若い人たちに話したのは、時代が予測困難になっている中で生きていく、私が思う大切な3つの力、ひとりで抱え込むと孤立してしまうので、助けを求める力、そして、もちろん助けてもらうだけではなく、助けを求められたら助けることもある、助け合えるネットワークを子どもたちに持って欲しい。

そして、これからどういう時代になるにしても、異文化に属する人たちと一緒に生きていかなければならない時代になる。そうすると、言わなくても分かるというのではない、言わないと分からない。共通の前提を求める人たちと対話をすることによって、何とか共通の理解にたどり着いて、そして共に働ける、協働できる、そういう力がどんな時代になってもこれからは絶対必要だと思うので、そのことを二つ目の力として、申し上げました。

助け合えるネットワークの中では、自分とは異なる人たちがたくさんいればいるほど困ったことにぶつかったときに、自分ではできないけれど、別の力を持った人たちがそれに一緒に立ち向かっていくことができる、そういう力を持って欲しいと思っています。

3つ目は、チャレンジする力です。自分で情報収集し、考えて決断して行動して、そのチャレンジの結果を引き受ける。成功することも失敗することもあるけれど、子どもたちはこれから80年くらいあるので、たくさんチャレンジをしてほしい。

成功することばかりではなく、失敗も含めて自分で決断してチャレンジするという経験を重ねて欲しい。それは絶対、力になるということを申し上げました。

文科省の基本計画を見たときに、そこに書かれている将来の予測が困難な時代に二つのコンセプトの一つ目、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる、そのためには、主体性、リーダーシップ、創造力、課題解決だけではなく課題を設定し、解決する能力、更に論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成ということがあって、先ほど私が申し上げたこととかなり重なっているので、国の計画の中でもそういうふうになっているのであれば、もう少し分かりやすく市民にお伝えできる大綱にできないかと考えたところでございます。

諫 本 委 員	<p> そして、もう一つのコンセプトのウェルビーイングとは何かというと、2ページの下に個人が獲得する自己肯定感と自己実現だと。日本の子どもは諸外国に比べて低いと言われてはいますが、それもものすごく大切ですが、やはり協調的要素、人とのつながり、関係性に基づくウェルビーイング、利他性であり、協同性であり、社会貢献意識、同じだから協調するのではなく、違っている人と協働していく、そういう協調的要素を育てていくことは、とても大切だと思っています。 </p> <p> そのようなことを市民に分かりやすく示せるような大綱にできないかという思いを強く持っております。 </p> <p> 登校しない子どもの学びの場の保障、文化芸術活動に参加して創造性を伸ばす機会の保障、文化芸術活動に親しむことや発表の場ということを超えて、それを通じて創造力を、クリエイティブな人材を育てていくという機会の保障、それも周辺部の子どもたちも含めて必要かなと思っています。日田市にももちろん残って欲しい、戻って欲しいという気持ちはありますけれども、日田市を出て世界で活躍することももちろん歓迎ですので、どっちであってもふるさとを思って欲しいし、日田市に居ても世界を志向することはこれからすごく大切だと思うので、活躍の場が日田市だろうと外であろうと、ふるさとを思い世界を思う、そういう人材になって欲しいと思っています。 </p> <p> これは私の一方的な思いですが、皆様方のご意見もいただきながら、ゆっくり時間をかけて、市民がとても教育に関心を持ってくださっているので、どういうふうに日田市の子どもたちを育て、それについて自分たちも関わろうと思ってくださっているのか、市民に関わっていただき、子どもたち自身の声も基本法では意見を聞くことが保障されなければいけないとされているので、教育を受ける子どもたちがどういうふうに考えているのかという意見も聞きたいと思っています。 </p> <p> 急がずに少し時間をかけて、市民や子どもの意見を聞きながら、皆様方と議論をしながら、大綱の見直しができればと思っていますので、そういう見直しが必要かどうかということも含めて、率直なご意見をいただければ大変ありがたいと思っております。 </p> <p> 私は最初の大綱を策定する時にいましたが、今、市長がおっしゃいました内容については、ほとんど同じような思いがこの中に入っていると思っています。全く異論はありませんし、不易と流行、やはり流行の部分もありますから、時代に合ったものに合 </p>
---------	---

市 長	<p>わせていくことは、その通りだと思います。</p> <p>策定した当時はどうやって策定したらいいのか分からなかった ので、いくつかの市町村のものを参考にしたり、硬い言葉ではなく 優しい平易な言葉で作らしようということ、それから特に 「未来を切り開き」というのは、いわゆる人間力を子どもたちに 付けて欲しいということ、「ふるさとを愛する人づくり」は、地 元のことをよく分かって出て行って、また帰って来てもらう、出 て行っても日田を意識してもらう、子どもたちに残ってもらいた い、帰ってきてもらいたい、関わってもらいたいという気持ちがあ って、「ふるさとを愛する人づくり」とした記憶がありますので、市 長がおっしゃったことと同じだと思います。</p> <p>けれども、この大綱の文章からそれがどれだけ見えるのかとい うと、少しどうかなというところもありますし、市長が言われた ことと、世界に通用する人、外を向いた人間に育ててほしいとい う部分は、この大綱の中ではあまり見えないのではないかと思 いました。</p> <p>みんなの思いも同じだったのですけれども、人口が減っていく 中、この地域を何とかしたい、外に出ていった子どもたちのう ち、それなりに活躍している人はいいのですけれども、どうして いいか分からず、帰ってくるという選択肢もあまり考えずに外で 暮らしているのも少しもったいないと思っていました。そうい った思いから策定した内容でしたので、今の時代に足りないところ を付け加えて、時間をかけて作りましようということをお っしゃっていただいたので、その方向で検討していただければと思 いました。</p> <p>大綱の中に入っていると思うのですけれども、それを市民に分 かりやすくということと、もう一つは、結果的にあまり変わらない かもしれないけれども、市民が関わって見直しをしていくとい うことにすごく意味がある。子どもたちも含めて、関わって作っ ていくということに意味があるのではないかと私は思っていて、そ ういう形ができればいいと思っています。戻ってきて欲しいとい う気持ちはすごくありまして、今、おっしゃられたように、「出 て行った後、戻るという選択肢があまり見えずに、ずっと外に出 ている」お子さんたちに戻るという選択肢をもっと分かりやすく 示すということでは、高等学校と連携して、外に出た卒業生に対 して高校が情報提供をする中に、日田に戻る、こういう支援があ る、こういう企業があるということも情報として出してもらえな いかということも現在、相談しているところでございます。</p>
-----	--

	<p>高校は県の教育委員会に所属するものですから、今まで個々には連携があったし、林工も三隈も日田高もすごく地域貢献などをしてくれていたのですけれども、市と高校の連携というところが十分でなかったように思うので、そこに対する働きかけもしていきたいと思っていますし、社会教育もあることなので、高校生も想定して策定してもいいのではないかと考えております。</p>
木 下 委 員	<p>資料3の第4期教育振興基本計画について、事前に資料をいただき拝見させていただきました。</p> <p>第4期計画では、先ほど市長のお話にもありましたけれども、新たにウェルビーイングの向上が掲げられた点が大きな特徴ではないかと考えております。</p> <p>教育におけるウェルビーイングとは、私なりに解釈しますと、全てにおいて幸福度の高い教育環境を構築し、かつ、それを持続していくことと理解しております。</p> <p>とても難しく感じる訳ですけれども、4ページから6ページにかけて、5つの基本的な方針、それから、16の目標と基本施策、指標がありますが、内容につきましては、前回の第3期計画とほぼ変わらないと思いますし、そもそも教育基本法の目的の一部に心身ともに健康な国民を育成するとありますことから、教育におけるウェルビーイングは全く新しいものではないという印象がしております。</p> <p>そういうことを踏まえまして、日田市の教育大綱の見直しについてとなる訳ですが、時代や社会が変化する中での見直しにつきましては、先ほど市長もおっしゃられておりましたけれども、至極当然なことであると思いますし、その時期につきましては、第4期計画が開始されました今ではないかと考えております。</p> <p>ただ、そのことを協議するのが少し遅いのではないかなとも考えております。もし、これから見直しを行っていくということになりましたら、第4期計画で取り組む目標が前回の第3期計画を継承しているということから、大筋は変更せずに2040年以降の将来を見据えた、先ほどから主張されておりました持続性や主体性、リーダーシップ、創造性、多様性や幸福感といった文言を取り入れていけばと個人的には思っているところでございます。</p>
市 長	<p>少し協議を始めていただくのが遅かったのかもしれませんが。見直した後に第4期計画が出て、私が就任したのが8月ということで、このような時期になってしまったことは大変申し訳ないと</p>

<p>諫本委員</p>	<p>思いますけれども、16の目標や基本施策はそれほど変わっていないのだらうと思います。</p> <p>市民も関わってどれだけ分かりやすくお示しできるかというところが大きいのかなと思っておりますので、教育については皆様方のご意見をいただきながら、教育長の方で進めさせていただければと思っております。</p> <p>市長のお話の中で、市民が関わる、子どもの意見や関わりが欲しいと言われましたけれど、教育大綱を策定するにあたってはスケジュールがあると思いますが、どういう方法であればそれが可能なのか、難しいかもしれませんがぜひやって欲しいと思います。</p> <p>初めはいきなり「大綱を作ります」となったので、関係者だけで作ったことは間違いありませんので、市民や子どもが関わることはとても良いことだらうと思いますので、ぜひその方向を取っていただきたいと思いました。</p>
<p>古田委員</p>	<p>前回の会議で、荒川委員が教育大綱というものを教育委員になって初めて知ったと話していました。教育委員でないと知らない、教育に関わっている先生方がこの大綱をご存じなのか、職員室などに貼っているのか、校長室に貼っているのか。</p> <p>どのくらいの方がこの大綱を意識していらっしゃるのかなと思いますし、この16の目標と基本施策の部分に関しては、すごい盛り過ぎというか、これが全部できれば最高ですよ。</p> <p>それを5つの分かりやすい、誰にでも分かる優しい言葉でまとめたのがこの基本方針なのかなと思いました。この16の目標と基本施策で1番大事なことは、1、2、3、4ではないかと思っておりますので、この部分を分かりやすい言葉にして、さらに、サブタイトルを付けるようにしたらいいのかなと思いました。</p> <p>日田市の人口はどんどん少なくなっていますし、学力の低下が年々著しいと感じています。グローバルと言って英語教育をこれだけやっても何でかというくらい学力が落ちているし、田舎だからとか人口が減っているからとか、できない言い訳を作ったら切りがないので、やはりここは気合を入れて、言葉だけじゃなくて、一丸となって大人の気合を見せたいなと思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>大綱について、どれくらいの教員の方々がご存じなのだらうかというのは、事務局から何かお答えありますか。</p>

<p>教 育 長</p>	<p>具体的に教育大綱というものを大判にして掲げるということではなくて、学校の教育目標であるとか、校長の学校経営の方針というのが前面に出ています。</p> <p>ただし、それを忘れないように日田市の学校教育の方針等、学校現場で作っていただく学校の教育方針の中には、日田市教育大綱という文言と日田市教育行政実施方針という文言は必ず入れて、学校の目標等をしっかり作っていただくようにしています。</p> <p>気合を入れた大綱ということで、皆さんに分かりやすく示すということであれば、学校の正門であるとか、玄関とか、日田市として大綱をしっかり掲げるという方針などは打ち出していけるのかなとお聞きして思っています。</p> <p>教育長に就任して、改めてこの大綱を見直しました。席の正面に掲げるようにいたしました。</p> <p>そうすると、学校現場は様々学習していますので、ウェルビーイングに書かれたこの3ページの内容というのは、この基本計画が出てきて知ったということではなくて、校長方はどなたに聞いてもある程度は理解していると思います。</p> <p>ですから、市長がおっしゃっているのは、こういった色をもう少し出せないかということであろうと考えています。時間をかけて少し見直しの期間があるということになりましたので、そこについては少し安心をしているところであります。すぐにこれがいいというものを中々打ち出せないところもやはりあるかなと思います。</p> <p>皆さん方のいろいろなご意見を聞いて、市長のお話も聞いて、私はこの全てをまとめた言葉がこの基本理念の「未来を切り開き」という言葉に凝縮されているような気がするのです。だから大綱の理念というものについては、そういうものであってもいいかなという気持ちがあります。</p> <p>基本理念の下に基本方針があって、更にその下に教育行政実施方針というものがありますので、これが1番具体になっていくところだと思いますので、理念を当たるのか、方針を当たるのか、教育行政実施方針で今言ったような具体的な流行の部分をもっと盛り込んでいくという考え方もあろうかと思うので、そういったところについては十分、考えを共有して、意思疎通を図って修正していく必要があるかなと思いました。</p> <p>それからもう一つ、大事なこととして、先ほど市長が高校生という話も出していただいたのですけれども、この教育大綱というのは、誰に向けて作っているのかということも考えないといけないと思っています。</p>
--------------	--

<p>市 長</p> <p>荒 川 委 員</p>	<p>国は、こども基本法を作り、この後、こども大綱というのでできると聞いています。これは先ほど市長がおっしゃった子どもの権利の部分ですね。だから、当事者の意見を聞くというのはきっとこれから出てくると思います。</p> <p>学校教育と社会教育の中でどのように進めていけばいいのかというのは実務的なことになるのですけれども、この教育大綱の方針のところを見ると、全て学校教育に関することだけではないと思っています。</p> <p>どういった子どもを育てていくのかということを経験と家庭と地域で考えていくような方針にしなければならないので、やはり学校教育に偏るという教育大綱ではないのかなと考えているところです。また、大人にも必要な資質、能力というものが求められていると思うので、そういった大人も育てていくための子どもや若者世代の教育に関する大綱なのか。</p> <p>先ほど木下委員から教育基本法の話もあったのですが、社会の形成者として必要な資質、これを日田市としてどのようにその資質や能力というものを定めるのかということになると思いますので、大人まで含んで考えると、この基本方針も少し変わってくるだろうし、高校生ぐらいまでの若者というところまでであれば、高校の方針というものもどうやって作ったらいいのかということになるかもしれません。</p> <p>言葉を見てみると、「子どもを育てる」「学校を作る」「まちづくりを進める」「環境をつくる」「未来につなぐ」となっているので、このあたりの整理も少し必要かなと考えているところです。</p> <p>教育大綱は分かりやすく示すもので、実施方針は具体的な取組、本来は大綱に合わせて基本方針があって実施方針があるのでしようけれども、現場は先に進んでおられるので、全体をそれに合わせて分かりやすく示すということかなと思っています。</p> <p>それから一般教育、スポーツ振興、文化財保護まで含めた形での基本方針になっている気がするのですが、そこをそうするか、もう少し子ども、若者に絞るかということもこれから進める中で考えてもいいのかなと思っています。</p> <p>市長がおっしゃった「日田市に住みながら、又は住んでいなくても世界とつながる」ということは、私もそのように考えております。英語の塾を主催してまして、現場からお伝えしたいことが一つあります。</p>
---------------------------	--

	<p>不登校の件なのですが、やはり学校に居場所がないというのが大きな課題ではないかと思います。コロナ禍もあったし、行かない選択も出てきた。そしてお友達と上手くやっいけない、自分を発揮できないというのが大きな要因のように思います。</p> <p>その中で、これはご提案なのですが、先ほど教育長がおっしゃったとおり、地域とつながる、つなぐということが一つ大きなキーワードになるかと思うのですが、例えば、ここでお話したことを学校に下ろして、地域に下ろして、そして家庭まで行けば日田市として一丸になれるのではないかと考えております。不登校で学校に行けない子の中々外に出すのは難しいと思うのですが、居場所を作ってあげるという意味では、公民館の利用などはいかがでしょうか。</p> <p>私も地域で20年くらい公民館活動に関わってきたのですが、元教員の方がステップ体操をしたり、すずめの学校をしたり、そうやって脳トレをしたりする中に、子どもたちが気軽に行けたり、逆に先生役を置いたり、そうすることで、縦社会の人と触れ合うという経験を積めると思うのです。</p> <p>先ほど教育長もおっしゃっていましたが、どのように実施していくのか、その中の一つの提案になればいいとご意見申し上げます。</p>
市 長	<p>公民館をもっといい場所に、他にもつながるといふことの重要性、地域の居場所、それから世界とつながるといふことですね。公民館について事務局から何かご説明がありますか。</p>
教 育 次 長	<p>現状からご説明させていただきます。</p> <p>まず、公民館では放課後子ども教室を行っております。曜日を決めて実施しているものでございまして、学校の学びの延長という形で実施をしている状況であります。</p> <p>ただ、不登校については、荒川委員がおっしゃるように日田市内での子どもの居場所づくりについて、子どもさんを受け入れるというのはまだ十分ではないと私どもも認識しております。</p> <p>公民館の運営上、実際受け入れを行うにあたっての課題等もございまして、受け入れ場所として1番地域に密着しているところと考えれば、当然公民館としての場所、機能を十分活用していくことも必要かと思っておりますので、今後公民館の居場所づくりについては、協議を具体的に進めていく必要があると思っております。そうなる受け入れの面についても、現在の体制以上の人員等をどうするかということもございまして、そういった内容</p>

<p>教 育 長</p>	<p>を含めて協議を進めていく必要があると思っているところがございます。</p> <p>居場所の拡充はやはり必要かと思っておりますので、事務局としてもその点については、市費で対応させていただきたい、早急に協議を進めていく必要があると考えているところがございます。</p> <p>今のようなご意見も、これまでは学校の中と家庭、つまり学校が中心になって考えていたけれど、これは社会問題になってきている訳で、社会的にこういったことについて広がりが出てきています。</p> <p>この教育大綱の基本方針の4がまさにそれに合致しており、誰でもいつでも学べる場と環境をつくると書いてある訳でして、これを具体的にどう進めていくかということについては、教育行政実施方針ということになっていくので、教育大綱の基本方針は、学校教育だけではなく、家庭教育や社会教育というところも取り込んで作っていく方向がいいのかなと思っております。</p>
<p>荒 川 委 員</p>	<p>学校向けの話に少し特化してしまいましたが、先ほど古田委員がおっしゃったとおり、世界とつながるという意味でも、地域の人とつながったりとか、年齢ごとの違いだったりとかを克服しない限りは、新たな人たちとつながるといのは難しいかなと思います。</p> <p>中学校3年間の義務教育というのは、やはり世界に出ていくための基礎の勉強ですよ。そこが疎かになるというのもすごく心配なところなので、そういうことを日田市全体で面倒を見ながら、その先に選択肢として社会とつながる、また、日田で生きていく、そして、外で活躍して日田の名前を挙げていただくとか、そういうのが理想だなと思ったところです。</p> <p>教育大綱はすごく広い範囲ではあるのですが、こういう議論をしている熱意と言いますか、私が教育委員になって初めて衝撃を受けたのは、「自分の子どもも含めて1人の子どもにこんなにも素晴らしい大人達が関わって育ててくれているという、そこが感動だったんです」と古田委員がおっしゃっていたことで、今もそれを子どもたちに伝えているところです。</p> <p>ですので、大綱をきちんと整理された形にして、実施できるところまでこぎつけて、それを全体の認識として持っていったら、家庭の認識として持っていったら本当に日田ブランドの良い子どもが育つのではないかなと思っております。</p>

<p>市 長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>教育大綱については、もう少し時間をかけて議論をしていきたいと思います。</p> <p>今、ご質問、ご意見もあった不登校のお子さんのことも含めて、日田市の児童生徒の現状について、議題の2に移ってご説明いただきまして、またご意見やご質問をいただければと思います。</p> <p>シート全ての説明は省略させていただきながら、全体的な傾向、それからA Iドリル等を体験いただこうかと思ったのですが、少し時間が足りないかもしれないので、まずは説明だけをさせていただきます。</p> <p>それでは、資料4と書かれた資料と合わせ、前のスクリーンもご確認ください。私からは、日田市の児童生徒の現状、学習、体力、それから不登校の状況についてご説明させていただきます。</p> <p>シートの4から7までをまとめてご説明いたします。</p> <p>シートの4から7までは、全国調査、県調査、市の学力調査の結果を示しております。赤いラインが全国平均と考えていただくと、全体的な傾向としましては、小学校は全国平均を上回る教科の方が多いのですが、平成30年、平成31年度以降、下降傾向になっているということ、中学校も平成30年、平成31年度以降、下降傾向で、最近是全国平均を下回る教科が増加傾向となっているということが折れ線グラフから見えるかと思います。</p> <p>次にシートの8から11までについてですが、意欲や学習、生活習慣に関する質問紙調査というものも合わせて学力調査では行っております。</p> <p>シート8の学習意欲については、中学校の方で低下傾向であり、特に、平成31年、令和2年度以降に少し下降傾向が目立つかなという傾向であります。</p> <p>それからシートの9、シートの10は、その質問紙調査から4つの項目を取り上げたものでございます。</p> <p>9は小学校5年生、10は中学校2年生の傾向ですが、特徴的なものとしては、小学校は「家で勉強するときに自分で計画を立てていますか」ということについて、青が日田市の平均で、赤が大分県です。ここについてはかなり県を下回っているという傾向が見られます。</p> <p>中学校については、シートの10で規範意識と言われる、いわゆる約束事を守っているかということについて、やや低下傾向にあり、県よりも下回っているというところで課題が見られます。</p>
--------------------------	--

小中を通じて共通している日田市の子どもの良さというところは、地域行事への参加、これは小6と中3も実は同じような調査があって、日田市はずっと全国平均と県平均を上回ってきています。つまり、地域と子どもの結びつきが強いというのは、一つの日田市の大きな武器であると捉えているところです。

シートの11です。先ほどから家庭との連携ということが言われております。

家庭での学習状況では、黄色が付いているところが県を上回っているもの、つまり、家庭での学習時間であるとか、学習する習慣については、日田市の子どもたちは県と比べるとやや課題があるという傾向を示したものが11ページです。

シートの12です。ここでは詳細は申し上げませんが、学力が平成31年度以降、低下傾向にある要因としまして、学級、学年、教科間の差が開いてきているということ、それから学習意欲もクラスによって、教科によって少し差が開いているという状況であるということが課題と捉えております。

要因としましては、二つ書いておりますが、大量退職による若手教員の増加に伴う教師の指導力の差であったり、児童生徒が多様化しており、一斉授業が困難になっているということも要因として考えております。

三角形で示しております下の3つは、具体的にこのようなことに取り組んでいきたいということを示しております。

組織的な授業改善・人材育成の推進、ICTの活用、そして個に応じた支援の充実、特に個に応じた支援の充実の1番下の丸、ここが今後のポイントになるかなど、先ほどから議論になっております「関係機関、家庭、地域との積極的な連携」ですが、家庭と学習面についても、学校だけで抱えるのではなく、家庭や地域と協力しながら、子どもの学習習慣を身に付けていながら、学習意欲を上げていく。当然、学校は先生方のスキルを向上させていながら、「分かった」「できた」という実感ができるような授業を展開していくことも必要と考えております。

13ページと14ページにつきましては、先ほどの要因等に関する資料でございます。ここは少しご覧下さいということで省略をさせていただきます。

15ページが体力の傾向です。

全体的な傾向であります。体力は常に良好な状態です。

スライドの16ページの赤い欄が、T得点と言われる全国平均です。多くのところでT得点を超えているということが分かるかと思えます。

シートの17ページについては、運動することが好きかという愛好度です。運動に対する意欲ですけれども、オレンジが付いているのが全国の割合を上回ったものでありますので、令和元年度以降、上昇傾向にあるという状況です。

シートの18ページです。

日田市としましては、体力向上については比較的取組が上手くいっていると判断しておりますので、シート18にあるような取組を今後も継続していきたいと考えております。

最後にシートの19、不登校の状況と今後の対策についてです。

シートの20ですけれども、全国における不登校児童生徒数の推移で、平成30年度以降、急激という言葉が適切かもしれません。増えている状況です。全国的にも増えているという状況の中、シート21の日田市や県も、全国と同様に増加傾向でございます。

日田市の特に小学校については、全国や県よりも少ない傾向ではありますが、中学校は全国よりも多く、大分県も多いということで、大分県が日田市も含めて不登校の割合が高くなっているという状況でございます。

シートの22と23につきましては、現在行っている校内における不登校児童生徒の支援や、市教委が行っております不登校児童生徒への支援を示しております。

これだけでは少し不十分なところが生じているということで、その説明が24からになります。

シートの24をご覧ください。

不登校児童生徒の学校外との連携です。学校の先生方は当然関わっていきますが、学校外の機関で相談や指導等を受けていない児童生徒数が、日田市では小中あわせて82人いるということです。

下の段は、そのうち90日以上欠席、不登校児童生徒は30日以上欠席となっておりますが、90日以上欠席している児童生徒の中で、学校外の機関等で相談、指導を受けていない児童生徒は48人いるということが分かります。

この部分について、市教委としては何とかつながりを持っていきたいと考えておまして、それがシート25、今後の不登校児童生徒支援についての部分となります。

今後の支援策としまして、1番下の黄色で囲った部分です。

まず、外部の機関とつながりを持っていない児童生徒に対して、教育センターが中心となりながら、ICTを活用して支援を

		<p>行っていきたいということ、それから、フリースクール等の民間施設と連携しながら、そういった児童生徒に何かつながる機会を持っていきたいと考えています。</p> <p>具体的なビジョンとしましては、シートの26にあります。</p> <p>日田市教育センターを中心として、そういった家庭でずっと過ごしている子どもたちに対し、オンラインで何か支援ができないかというところからスタートしたいと考えています。</p> <p>学びの保障ということも当然目標の先にはありますが、まずはつながるということ、子どもが何かちょっとしたことで相談できる、学校以外でもちょっとした話ができるのがICTでありますので、場所は家庭と教育センターとありますけれども、そういったツールを使いながら、1人1台端末を利用した支援ができないかということで、来年度からこういった支援に取り組んでまいりたいと考えているところであります。</p> <p>最後にシートの27です。</p> <p>国はICTの活用は必須であると示しております。当然、学力向上についてもそうでありますし、不登校支援についても同様です。今後、日田市としましても、配備されているICT機器を最大限活用していきながら、様々な部分で子どもたちの学習意欲の向上、学力の向上、それから不登校支援等につなげていきたいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
市	長	<p>体験してみようとおっしゃっていたのは、どれぐらい時間がかかるものですか。</p>
	学校教育課長	<p>5分程度いただければ、AIドリルだけは体験していただくことができます。</p>
市	長	<p>皆さん、5分程度よろしいですか。AIドリルってどんなものですか。</p>
	学校教育課長	<p>子どもたちの個に応じた指導ができるものですが、よろしいでしょうか。</p>
市	長	<p>では少しやってみましょう。</p>
	学校教育課長	<p>隣にICT支援員がおりますが、学校でもこうやって支援に入ります。</p>

＜A I ドリルの体験実施＞	
市 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、先ほどのご説明と、体験していただいたことも含めて、ご質問なりご意見なり、ご自由にお願ひします。</p>
諫 本 委 員	<p>以前も体験したことがありますけれど、これが何よりもいいのは、子どもは自分の意思でどんどん進めていく、多分面白がってやると思うので、そこが一番いいのかなと。それから先生が全体の状況をずっと把握できるということがいいのかなと思います。</p>
教 育 長	<p>導入の経緯を少しお話いただけますか。</p>
学 校 教 育 課 長	<p>A I ドリルは見ていただきましたとおり、個に合った課題が出てくるもので、これまでは、例えば先生方が児童生徒に課す問題は一律なものが多かった。同じ問題数であったり、問題の内容も同じであったり、実際には5問出ても30分かかる児童生徒もいれば、3分で終わる児童生徒もいる。簡単過ぎると思う子どももいれば、難し過ぎるという子どももいる。</p> <p>先生方が問題を出す中で、どこの子どもにもターゲットを絞るのか、どこにラインを引くのかがすごく難しかった部分があります。家庭学習も同じで、同じ量を出しても5分で終わる子と60分かかる子といた場合、子どもたちの家庭学習の時間をある程度長くするためには、自分に合ったものが課せられる方が望ましいということもあって、このA I ドリルを導入し、その子に合った問題が出されることになりました。</p> <p>A I ドリルは、進んだ学年の学習も復習もできます。友達に聞かなくても恥ずかしくなくとも、中学生が小学校の問題をもう一度やり直すこともできます。</p> <p>そういったことも含めて、個に応じた学びを推進するための一つの手段として、A I ドリルを導入しております。</p>
教 育 長	<p>別府市で先行導入されていたものでありまして、別府市の検証結果を参考にさせていただいて、効果があるということで導入したと聞いています。</p> <p>それから、都市教育長会議が先日あったのですが、タブレットを持ち帰らせているところと学校に置いているところ、やはり大きく違いがありまして、完全に持ち帰らせているという自治体も非常に増えているという状況でした。ただ、慎重にまだ持</p>

<p>市長</p>	<p>ち帰らせていないというところも結構あると感じました。 日田市は、小学校3年生以上は持ち帰らせている状況です。 これは不登校のお子さんに使えるということなのですね。</p>
<p>荒川委員</p>	<p>導入して2年経って、日田市の検証結果というのは何かあるのでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>令和2年度と3年度に国の事業を活用して検証を行って、令和4年度から正式に導入しました。 現在、このAIドリルを開発している業者と連携をしながら、先ほどご覧いただきました日田市の学力調査の結果とAIドリルの活用状況をリンクさせて、どんな活用をすれば子どもたちの学びの力になるのか、これを業者が分析をしてくれていまして、そういった連携を行いながら、このAIドリルの活用を進めているところです。 2月中に業者からオンラインで各学校の研究主任を対象に効果的な活用方法などについて、検証してもらうようにしております。</p>
<p>荒川委員</p>	<p>子どもの家庭と教育センターで使えるということなのですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>放課後児童クラブ等でもオンラインの環境があればできるようになっておりますが、主には家庭への持ち帰り使っています。 教育センターに持ってきた場合も当然できる状況です。</p>
<p>荒川委員</p>	<p>家庭で学習できない状況にあるお子さんが多分いらっしゃると思うので、そういうお子さんがどこでできるのかなと思ったのですが、例えば図書館とかでできるのですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>通信環境があって、自由にその環境を利用できるところ、いわゆるフリーWi-Fiの状態であれば、使うことができます。 図書館は大丈夫です。それからAOSEやパトリアも大丈夫です。ただし、現時点において学校、家庭と放課後児童クラブ以外では利用させていませんので、校長と協議が必要となります。 各家庭については、Wi-Fiなどの通信環境が整っていないご家庭もありますので、そういったご家庭については、教育総務課からルーター等を貸し出して、使用料や接続料の補助等も学校教育課から行っているところです。</p>

<p>市 長</p>	<p>他にご質問はいかがですか。</p> <p>先ほどのご説明では、地域とのつながりは日田は良いと。</p> <p>それから体力は、あるいは運動が好きというお子さんは多かったのですが、学力が少し低下傾向にあるのが気にかかるところでしょうか。</p> <p>その辺りについて何かご意見なりご質問はいかがでしょうか。</p>
<p>木 下 委 員</p>	<p>不登校の状況についてですけれども、10年連続で増加傾向にあるということですが、会社におきましても離職者が年々増加傾向にございます。</p> <p>自分の仕事に自信が持てないとか、幸福感がないとか、そういった理由のようですが、それが不登校と因果関係があるのかどうかは分からないのですけれども、子どもが不登校のために保護者が離職しているといったケースは、実際にあると聞いております。</p> <p>先ほどの国の基本計画の中で、ウェルビーイングの話がありましたが、教育におけるウェルビーイングで、不登校の児童生徒の数を減少させ、社会に役立てていただきたいと思いました。</p>
<p>市 長</p>	<p>親御さんの離職につながるということで、やはり会社としても危機感を持っていただいていることがよく分かりました。</p>
<p>諫 本 委 員</p>	<p>子どもの不登校の原因の一つは、やはり学校が楽しくないとか、そういう理由もあると思います。</p> <p>自分が存在する居場所がないということもあると思うのですが、子どもが自分の意思で面白がって携わっていくということは、子どもは自分がやりたいことをやるので、積極的にやると思います。学校が面白くないと思っている子どもは、自分がこういうふうにやりたいのに、言葉は悪いですが、みんなに合わせて型どおりにしていくので、自分はこれをやりたいのに、みたいなのところもあると思います。</p> <p>子どもの個性の多様性ということもあるのですが、全国には子どもたちが自分たちで作る授業みたいなものを取り入れている学校もありますよね。</p> <p>先生はそれをサポートするだけで、子どもたちが農業などを進めていくところもあるようです。日田市の小学校と中学校の中でもそういうことを一部試すというか、子ども達にさせているところもあるのではないかと思いますのですが、その辺の状況をお聞かせ</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>ください。</p> <p>子どもたちが自分の意思で学習を進めていく取組の一つとして、単元という一つのまとまり、自由進度学習というものが今、全国的にも少しずつ話題になっております。</p> <p>子どもたちはゴールは分かっていますが、そこまで自分たちで時間ややり方を考えながら進めていくということです。</p> <p>これはかなり先生方に高いレベルが要求されて、やはり子どもに任せるということは、放っておく訳ではなく、上手く掌の上でルートを逸れてもまた戻ってくるように途中評価しながら、総括しながら進めていかなければなりません。</p> <p>一部の学校では試験的にやっている学校もありますし、今後日田市でもそういった事例を紹介しながら、子どもたちが意欲をかき立てられるような、自ら学んでいくという意欲の向上に向けた好事例は、共有していきたいと考えております。</p>
<p>諫本委員</p>	<p>子どもたちはそれぞれに違い、いろんな可能性を持っていると思います。</p> <p>ですから、一緒に教室の中で、それを全てやるというのは難しいかもしれませんが、ハードルは高いですけれども、子どもの自主性を尊重しながら子どもたちを伸ばしている、そういうところでは不登校はずっと少ないようですので、子どもにとって魅力ある、自分が伸ばせる、そういった環境を少しずつでも進めていただけたらと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>今はまだ日田で取り組んでいる先生はいらっしゃらないけれども、これから好事例を見ていこうということですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>既に学校の中で取り組んでみようということで、一つの単元というところで試験的に、来年度に向けて取り組んでいこうとしている学校がいくつかあります。</p>
<p>市長</p>	<p>どこの学校かということをお聞きしても構わないですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>現在、小野小学校、それから三芳小学校などがマイプランという言い方をしながら、子どもたちが進めていくという学習に取り組んでいると伺っております。</p>

古 田 委 員	<p>学力が年々低下しているのが数年前から問題になっていますが、中々結果が出てない。でも、私も子育て中なのでよく分かるのですけれど、先生方は本当に一生懸命されています。宿題もきちんと出ているし、授業も本当に一生懸命されている。</p> <p>やはり家庭環境とか、子どもの周りの環境という部分にすごく左右されます。小学校、中学校はいろいろな子がいます。</p> <p>立派な私立とは違って、それが公立の良さだと思っているので、それはいいことだなと。本当に先生も大変だろうと思うし、学校が家庭にどこまで入り込めるのだろうと思うし、不登校の生徒もすごく増えていって、先生に毎日応援をされるのも限界があるのだろうし、数字ばかりが見えてしまってということもあるのですが、数字と学校現場の頑張りというもの何かもっていい形にならないのかなと思います。先ほどの話に戻りますけれども、教育大綱の文言を変えたところで、現場の先生方も本当に一生懸命されているので、文言を考えることに時間を費やすよりも、何かもっとやれることはあるのかなとも思いました。</p>
市 長	<p>家庭環境については、学校だけでは限界がありますので、そこは市長部局の福祉の側からも関わっていき、連携を深めていきたいと思っております。</p>
荒 川 委 員	<p>先月の定例教育委員会でご提案させていただいた件なのですが、生徒の特性という部分です。</p> <p>幼稚園の先生方からご意見が上がっているのが、5歳児健診を義務化していただけないかということです。どういうことかと言いますと、5歳児健診といって小学校に上がる前の健診があり、アンケートがあります。</p> <p>アンケートには、集団に馴染めないとか、固執するとか、いろいろ人が集まると行動が乱れるとか、そういういろいろな項目があります。そこにチェックをしても相談はありませんということで、結局、学校側にその様子が伝わらないという状況があるようです。小学校の集団行動になったときに馴染めず、それで不登校になった子どもが多いのではないかと幼稚園の先生方がおっしゃっていました。</p> <p>福祉の方とも連携を取っていただいて、現場の意見を聞きながらできる改善をしてくださるというお話をいただいたところです。</p> <p>発達障がいの枠組みというか、チェックが始まったのは2000年頃で、それ以降、グレーゾーンだと言われている人たちが半</p>

	<p>数近くいるという現状らしいです。親の仕事による夜更かしでそうなるとか、グレーゾーンもどきも多いらしいです。</p> <p>そういう子どもたちをきちんとチェックできるシステムがあれば、就学前に何とか手だてをしてでも、幼稚園で支えてあげたいと思っているところだそうです。</p> <p>私たちが学校を見に行ったときに、最近の学校の昔との違いに驚いたことがあります。支援学級の話ですけれども、肢体を補助しなければいけないクラスもあれば、心もあるし、いろいろな障がいがあったりする場合があって、学校教育が上手く機能していないという話も聞いたりしますので、そういうことも含めて福祉との連携、小学生の見守り方、中学校や高校との連携など、細部にわたって大変かもしれないですけど、その辺りの見直しもお願いしたいと思います。</p>
木下委員	<p>最後にもう1点質問ですけれども、教育大綱の見直しについてですが、これから時間をかけて行っていくということでしたけれども、教育長からどの部分を変えるのかというお話もありました。</p> <p>例えば、教育大綱の中の基本方針について大幅に変えた場合、1月に協議しました教育行政実施方針に影響等は出てくるのでしょうか。</p>
教育総務課長	<p>教育行政実施方針ですが、現状や問題点、今後の方向性、今後の取組の内容につきまして、現状を把握した上で修正をかけている状況でございますので、基本的な内容に変更はございません。</p> <p>ただ、基本方針が変更になることによって、その項目の振り分けといいますか、構成自体が多少変わるという可能性はございます。</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。それでは最後にその他の事項ですけれども、本日の議題のほかに、何か協議事項やご質問などはございますでしょうか。</p>
教育長	<p>協議ではないのですけれども、資料4の9ページ、10ページのところです。小学校5年生にも中学校2年生にも「学校のきそくやクラスで話し合っただけを守っていますか」という質問項目あります。</p> <p>横軸を見てみると90%を超えていますので、非常に高いと見えなくはないのですけれども、学校が本当に学びに向かっているとき、本当に家庭環境に左右されずにお互いが学びの場にきちんと</p>

	<p>といて、そして、誰かが誰かに教えたり教えられたりという姿がよく見えるのは、この数字がほぼ100%に近いとき、学校現場でずっと見てきてそういうふうに思っています。</p> <p>日田市では、この「学校のきそくやクラスで話し合って決めたことを守っていますか」という答えがほぼ100%に近い状態でずっと推移してきていました。</p> <p>これが下降傾向にあるということが非常に心配しているところでありまして、やはりこういったことに関しては、流行の部分だけではなくて、不易な部分として、しっかり家庭と連携し、また学校の中だけでの生活ではなく、市長が言われたように子どもたちが外に出ていって何かに触れて学校に戻るということもやはり必要になってくるということを感じております。</p> <p>特別支援にも不登校の問題にもこれは関係してくるものではないかなと考えて、皆さん方のご意見を聞いたところでありました。大変参考になりました。</p>
市 長	<p>一つの数字の見方も、そういう見方で他と関連があるということでございます。</p> <p>その他はいかがでしょうか。それでは、本日の次第は以上でございます。</p> <p>事務局から何かございますか。</p>
事 務 局	<p>多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度総合教育会議を閉会とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">終了時間 11時30分</p>